

令和5年度

牛島小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 知識・技能習得の基盤となる学習規律・習慣の確立。
- 児童一人一人が自覚的に自己の学びを把握し振り返る、主体的な学びの実現。
- ICTを活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現。
- 児童が自尊感情を高め、意欲的に取り組む学習活動の実現。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
森山 弘美	喜多 とよみ	上田 尚
	筒井 早苗	教諭 林 侑佑 教諭

校長

喜多 とよみ

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的対話的に学び合う中で、粘り強く学び、持続的に取り組む態度を養う。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員相互の報告、連絡、各種質問紙調査等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的基本的な漢字の読み方や使い方は理解できている。 ○始業の時刻を守ろうと努力し、休憩と学習の切り替えができる。 ●内容を理解して解く応用、活用の力が弱い。	・読書に進んで取り組み、語彙力の向上を図る。 ・「話形」の活用などを通して表現力やコミュニケーション力の向上に努める。 ・体験と言語を結びつけ、実感を伴った理解ができる。 ・題意を正しく読み取ることができる。	・市立図書館と連携し、図書に興味をもたせて読書の質と量の向上を図る。 ・「家庭学習の手引き」「よりよく学ぶための7つのやくそく」を見えるところに掲示し、学習が進められるようにする。 ・牛島オリジナルの「聞き方」「話し方」を見直し、表現力やコミュニケーション力の向上につなげる。 ・朝活等で「視写」「要約」に取り組む時間を確保する。	○4月からの取り組みを継続しつつ、以下のような指導の改善に取り組む。 ・学習内容と身近な生活が結びつくような授業展開を心がけ、実感を伴うようなまとめや振り返りを意図的に行う。 ・長文を読んで「要約」する学習を定期的に行い、内容を把握する力の向上を図る。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○他者の意見を受けて自分の考えを伝える事ができる児童が増えてきた。 ○タブレット端末を個別の学習で活用できる児童が増えてきた。 ●他者の意見を聞いて、自分の意見と比べたり深めたりすることが十分でない。	・対話的な学びの中で他者の意見を共有し、考えを深めることができる。 ・「傾聴」的な聞き方ができ、粘り強く対話し、考えを深めることができる。 ・タブレットを活用し、思考を整理し、表現するための道具として使えるようにする。	・学習形態の工夫する。(話し合いの型を作る。)(ペア→グループ→全体→個人の気付き) ・自身で書いてまとめたものを生かした活動を取り入れる。(考える→書く→伝える→考える) ・「傾聴」的な聞き方や、他者と自分の意見を比べたり関係づけたりする聞き方ができるように指導を工夫する。 ・児童の思考力が深まる発問を工夫する。 ・タブレット端末を常時児童の傍らに置くことで活用の頻度を高め、スキルの上達を図るとともに、思考の整理や表現に活用できるようにする。	○4月からの取組を継続しつつ、以下のような指導の改善に取り組む。 ・自分の考えをまとめる時間を確保し、それをペアやグループで説明し、考えを比べながら議論する機会を増やす。 ・算数科において、立式した根拠を文章に表す活動を取り入れる。 ・ICTを活用し児童相互の意見を視覚化して共有し、対話的な学びを実現する。 ・市の学力サポート事業を活用する。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○めあてをつかみ、学習のまとめができていいる。 ○見通しが立てば、自分で考えて学習に取り組むことができる。 ●自分から主体的に発言している児童と発言に消極的な児童と二極化している。 ●学習を振り返り、次の学習に活かすことが十分でない。	・自分の考えをもち、進んで発言できる。 ・他者の意見と自分の意見を進んで関係づけることができる。 ・学習内容のまとめにとどまらず、振り返りを書いたり、発表して共有することができる。 ・自己を変容させることができる。 ・互いを認め合い、自由な発言を受け入れることができる。	・児童が集中して学習できるように「よりよく学ぶための7つのやくそく」を活用する。 ・授業の構成や発問・板書を工夫し、児童が主体的に意見を出し合えるようにする。 ・発達段階に応じて、振り返り方を具体的に指導し、個々の学びを深め次の学びへの意欲につなげる。 ・ポジティブな行動支援(PBS)に基づく授業づくりと生徒指導をする。	○4月からの取組を継続しつつ、以下のような指導の改善に取り組む。 ・振り返りがより効果的になる観点を工夫して提示し、具体的に振り返ることができるようにする。 ・PBSに基づき、児童自身がポジティブな言動や行動が進んでできるようにする。		

令和5年度 学力向上ロードマップ

